

これまでの議論の整理と今後、検討が必要と思われる項目

淀川水系流域委員会  
第4回 委員会水需要管理WG  
(H14. 8. 19)  
資料 1-2

		これまでの検討内容、議論等	今後、検討が必要と思われる項目
基本的な考え方		水需要管理のコンセプト	コンセプトの具体化
現状把握(実態の把握と問題点の整理)			
利水の仕組み等		・フルプランの説明(河川管理者)	
使用実態	上水、工水等	・上水道等の現状と課題(委員会、部会における河川管理者の説明)	上水道関係のさらなる現状把握？ 使用実態、取水実態のまとめ
	農水	・3府県の農業用水の実態把握(府県担当者からのヒアリング) ・大阪における水需要の実態(NPOからの報告)	
	水利権	・3府県の農業用水の実態把握(府県担当者からのヒアリング)	
今後の方向性(発想の転換)			
開発対応から需要管理へ	環境用水の導入	・河川の攪乱の必要性	現行の河川維持用水の状況の把握 環境用水の具体的検討(必要な量や利水量への影響) リスク対応の考え方の検討
	リスク対応	・地球温暖化の影響(降水の集中化等)と余裕量の確保	
	供給限界の限界	・現在の淀川水系の取水量は限界に近い	取水量の実態把握の方向性 供給限界の検討
水需要予測の転換		・これまでの水需要の予測は過大	水需要予測方法の把握(関係者へのヒアリング) 水需要予測の検証と改善の方向性の検討
需要管理の導入	日常的な節水	・不便を強いるのではない節水を ・湯水時だけでなく日常からの節水を	節水社会等の実例の把握(福岡市等) 節水による効果(河川流量への影響等)の把握
	有効利用	・繰り返し利用、水のリサイクル	節水技術、リサイクル技術の動向
	水利権の見直し	・取水実態と水利権の乖離	見直しのルール等の方向性
実現に向けての課題			
現行の枠組みの限界等の整理		・河川法とフルプランの関係	関係者、社会への働きかけの検討(河川管理者が行える事項の整理、農水等との協力の方向の検討)
新たな仕組みの提案		・水需要管理協議会の設置	水需要管理協議会の具体的なイメージ